

[常磐公園自然環境調査結果【追記版】(概要版)]  
 平成27年 3月  
 旭川市土木部公園みどり課

## (7) 微気象調査

### ①調査方法

現地に計測機械を設置し、24時間連続の自動観測を行いました。設置期間は四季毎に各7日間としました。

### ②調査結果

公園の堤防側の樹林は北方向の強風に対し防風効果が少ないこと、公園内の地点では、河川敷と比較して静穏であることが特徴としてあげられます。

## 4 常磐公園の生態系

### <常磐公園の自然環境の特徴>

調査結果から常磐公園の自然環境は以下のような特徴を持っていると考えられます。

- ・常磐公園は、街中にある都市公園で、ハルニシ、ドロノキ、ミスナラ、イタヤカエデなど多くの在来種とニセアカシア、チョウセンゴヨウなどの多くの外来種の高木が多いという特徴があり、一方林床は芝生や裸地（自由広場）など頻繁な管理が行われています。
- ・草本類の確認種は多いが外来植物の割合は30.1%と比較的高い値を示しています。加えて特定外来生物、要注意外来生物の確認も比較的多くなっています。
- ・現在みられる大木は、樹洞や樹幹が多くの動物の重要な生息環境および営巣環境となっています。（樹洞で繁殖する鳥類、大木を食草とする昆虫類など）
- ・常磐公園は石狩川に隣接するとともに千鳥ヶ池など水辺が多く、千鳥ヶ池に集まる水鳥（冬鳥）をはじめ、大木の頂上で採餌や休息をするオジロワシ、樹洞で繁殖する夏鳥や留鳥がみられ、一帯の林帯では渡りの時期に森林性の鳥類が中継地利用するなど、季節に応じた鳥類の良好な生息（繁殖やねぐら、休息を含む）環境になっています。
- ・哺乳類に関しては、野生動物だけでなく、ネコ（飼猫・野良猫の餌付け）やイヌ（飼犬）も多くみられることから、良い生息環境とは言い難いものの、キタキツネなどの河川からの移動個体が見られたり、ヤマコウモリが樹洞をねぐらに利用したり、エゾリスやエゾアカネズミの生息が確認されています。

## 5 今後の対応

常磐公園の今後の管理や事業実施にあたっては、本結果を基礎資料として活用し、必要な検討を行っていきます。なお、常磐公園改修事業の完了後は、周辺生態系への影響を検討するため、公園内や石狩川の動植物や植栽樹木の状況をモニタリングし、公園の管理に活かしていきます。

また、動植物の生息・生育環境を意識した管理や住民の協力による公園管理などの視点を考慮し、人々の利用がありながら多様な動植物が生息・生育する常磐公園となるように取り組みをすすめます。

今後、本調査結果を基に改修事業に伴う緑の復元や生態系への影響の確認、維持管理の手法などの検討をすすめてまいります。

本資料は概要版であり、詳細版については旭川市土木部公園みどり課で配布しております。その他、同課ホームページからダウンロードしてご覧になることができます。

お問合せ先 旭川市土木部公園みどり課  
 旭川市6条通10丁目 市役所第3庁舎  
 電話番号 0166-25-9705  
 Eメール kouenmidori@city.asahikawa.hokkaido.jp  
<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/kouenmidori/>

旭川市では、中心市街地の活性化を図る取り組みを進めているなかで、常磐公園の歴史や景観、または周辺の文化施設などといった本地域の特徴的な、“地域資源を活かした文化・芸術と落ち着いたきのある緑地空間による魅力ある公園の創出”を大きなテーマとして、平成25年7月に「常磐公園改修事業基本計画」を策定いたしました。計画策定にあたり、樹木伐採により生態系に影響を与えることを危惧する声や、現在の常磐公園の緑と景観を守ってほしいといった声が多数寄せられたことから、常磐公園の環境に配慮した整備や管理をするための基礎資料として、平成25年10月から平成26年9月の1年をかけて、動植物や気象などの自然環境調査を実施しました。この調査の結果をとりまとめましたので皆様にお知らせします。

今後、旭川市ではこの調査結果を踏まえ、市民の意見を取り入れながら常磐公園にふさわしい緑の復元や維持管理に取り組んでまいります。

## 1 調査範囲

調査の範囲は常磐公園及び隣接する石狩川の河川敷の一部としています。



調査の範囲



調査の範囲(航空写真)

## 2 調査の工程

調査は下記の工程で行いました。

調査項目	平成25年				平成26年								平成27年						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
1. 計画準備																			
2. 調査・データ整理																			
(1) 植物調査																			
(2) 鳥類調査																			
(3) 両生類・爬虫類・哺乳類調査																			
(4) 魚類調査																			
(5) 昆虫類調査																			
(6) 土壌調査																			
(7) 微気象調査																			
3. ワークショップ		01 初日		01 2日目			01 3日目			01 4日目		01 5日目		01 6日目			01 7日目		

調査工程表

(1) 植物調査

①調査方法

調査範囲全域を踏査し、環境区分ごとに植物相を把握しました。公園内については、公園内をゾーン区分して樹木の分布状況や胸高直径等を把握し、これらのゾーンごとに、林床の植物相の確認を行いました。また、公園内の池や水路では、水生植物を採集して確認し、水深が深い場所では、竿に熊手を装着し、水生植物を引っかけて採取しました。

②調査結果

調査の結果、90科361種の維管束植物が確認されました。嵐山、突哨山、旭山など周辺の地区の平均確認種数370種とほぼ同レベルの確認種数でした。

樹木については公園造成時から生育していたドロノキ、ハルニシ等の大木のほか外来種であるニセアカシアの大木もあります。

草本類については、重要種（環境省レッドデータブック等に掲載されている種：以下同じ）として「ハイネズ」「フクジュソウ」「エソサンザシ」「キンロバイ」「エソシモツケ」「ヤマタニタテ」「エソムラサキツツジ」「オオアブノメ」「クロユリ」「ミクリ」の8科10種を確認しました。これらの種の中には、これまでの公園整備の中で植栽をされたと考えられるものも含まれています。また、特定外来生物（外来生物法で生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼす、又は及ぼすおそれがあるものとして、栽培や運搬等が規制されている種）としてオオハンゴンソウ（右写真）が確認されています。



オオハンゴンソウ

(2) 鳥類調査

①調査方法

鳥類調査は、鳥類の活動が盛んな早朝～午前中において目視、鳴き声等による任意観察を実施しました。任意観察は定量的な手法としてライセンスルートを設定し、種類、個体数、利用環境を把握しました。定性的な手法としては鳥類相の把握のため、30分間の定点観察を4地点で実施し、バードウォッチング等を行っている公園利用者を対象として、調査範囲で見られる鳥類について聞き取り調査を行いました。

②調査結果

調査の結果、10目27科63種の鳥類が確認されました。神居古潭、嵐山、突哨山など周辺の地域の62種から97種と同レベルの確認種数でした。

冬季には、ベニヒワ等の冬鳥が落葉広葉樹の種子を採餌している姿や千鳥ヶ池沿いの針葉樹の大径木にオジロワシとまっている様子が確認されました。千鳥ヶ池では、コイがカラス類とオジロワシにより捕食されている様子も確認されています。春には、キンクロハジロ、ヒドリガモなどの冬鳥が渡りの中継地として利用する様子も確認されています。6～7月の繁殖期には、アカゲラ、ニューナイスズメ、ムクドリ、コムクドリなどが樹洞を使って繁殖している様子が確認された他、常磐公園周辺で繁殖するハイタカやチゴハヤブサ、カワセミなどが狩場として公園内に来ている様子が確認されています。重要種はミコアイサ、オジロワシ、オオワシ、ハイタカ、オオタカの5種が確認されています。



オジロワシ(重要種)

(3) 両生類・は虫類・ほ乳類調査

①調査方法

両生類・は虫類・ほ乳類調査は目視調査・痕跡調査を基本とした調査を行い、捕獲が必要なネズミ類等については捕獲調査を行いました。コウモリ類調査は、バットディテクターを用いて生息の有無の把握を行いました。

②調査結果

調査の結果、両生類1目2科2種、は虫類1目2科2種、ほ乳類3目4科5種が確認されました。

両生類はアマガエル、エゾアカガエルの在来種2種、は虫類はクサガメ、ミシシippiaアカミミガメの2種ですが、両種とも本来、北海道には生息していない外来種です。ほ乳類はキタキツネ、エソヤチネズミ（河川敷で確認）、エソリス（食痕）、エゾアカネズミ（食痕）、ヤマコウモリの5種、ほかにヒナコウモリ科の1種（音声）が確認されています。重要種は、ほ乳類のヤマコウモリが該当します。公園内の3カ所の樹洞をねぐらとして利用している様子が確認されました。



出巢個体  
ヤマコウモリ

(4) 魚類調査

①調査方法

魚類調査は可能な限り定量的な調査を行いました。採捕は投網を5回、タモ網・サデ網による調査を2人で30分間行い、各地点に「どう」を5個ずつ設置し翌日回収しました。なお、捕獲した魚類については、体長、全長、体重を測定後、速やかに元の池に放流しています。

②調査結果

調査の結果、2科4種の魚類、モツゴ、コイ、キンブナ、ドジョウが確認されました。また、同時に魚類以外の水生動物として、貝類のオオタニシと甲殻類のスジエビが確認されています。重要種は、魚類ではドジョウ、キンブナ、貝類ではオオタニシの3種が該当しますが、オオタニシ以外は、公園に移入したものと考えられます。

(5) 昆虫類調査

①調査方法

昆虫類調査は任意採集法、バイトラップ法、ライトトラップ法によって実施しました。

②調査結果

調査の結果、14目148科488種（クモ類を含む）が確認されました。嵐山、神居古潭、突哨山、旭山などの地域の約700種から約1400種に比べて確認種は少なく、特にガ類が少ないことが特徴です。確認種は湿った環境に生息する種、草地に生息する種、樹林や林縁の草地に生息する種など狭い面積ながら比較的多くの種が見られました。また、花壇の花に訪花するモンキチョウやハナアブ類は個体数も多く確認されました。

重要種は、チャイロスズメバチの一種が確認されました。昆虫類でも特定外来生物のセイヨウオオマルハナバチ1種が確認されています。



チャイロスズメバチ(重要種)

(6) 土壌調査

①調査方法

土を採取し、「緑化事業における植栽基盤整備マニュアル」等に準じた方法で化学的性質の分析及び物理的性質の試験を行いました。

②調査結果

著しく悪い状況の箇所はありませんでした。